

出席・題詠 芽

母の好物
木の芽和え
鯛の吸い物
ちらし寿司
母さん木の芽の季節ですよ

和泉 圭

あなたの
すきまのあいた
心のかごを
芽ぶく花で
うめてあげたい

榮 子

芽吹く
山並み
薄紫から
萌黄色
生きてる証

中塚 育子

迷いの中で
いつも他人まかせに
新しい何かの
芽生えを
待っている

岡部亜矢子

早朝のウォーキング
山道で見つけた
竹の子の芽
そつと隠して
知らん顔

清 月

善の芽
悪の芽
ああ
すべて私の
内に棲む

島 小舟
(二席)

剪刀はさみの入れよう
間違えたか
残した芽が
明後日の方へ
成長してしまつたよ

よ 志

レポート・倉本美穂子 作成・かやみちこ

自分もこの時期になったら、母を思い出すので共感の歌です。あたたかい歌ですね。私の母もちらし寿司が上手だったんですよ。
昨年十一月に母を見送りました。去年の今頃は、母の好物を作ったが、今年は木の芽が沢山芽吹いても、もう食べてもらえないんです。

心のかごが優しいですね。こんな人に癒してもらいたいと思いました。自分も心に隙間があいているので、びつたりの歌だと思いました。

友だちのご主人が亡くなられ、心にぽっかり穴が空いたようだと聞き、懐紙に籠いっぱいの花の絵があるのを見て、思いついた歌です。

字数が少ないが、最後できちつと締められていますね。田舎で育ったが、その情景を思い出させて頂いたようです。写真に撮りたいな〜と思いました。

老母が入院して週に一度、中国道を通るが、毎週山の色が変わるのが分かります。母が生きていてくれるからこそ、山の色も楽しめるんですね。

五行に自分の気持ちをよく表されていますね。弱さから祈り、願いが出てきて、いいことがあるようにと人間らしい歌ですね。共感しました。

皆さまの歌を読んで、力が出るような歌を作りたいかったが、思ったことをそのまま歌に。共感してくださつてうれしいです。

前三行で情景を、後二行で自分の心をさらりと詠まれていて上手いなあ。春らしい歌。四、五行にストリーパーがありますね。

孫二人が入院して五行歌はお休みしたかったんですが…。芽をいばい考えても出来ないので想像の世界でストリーク解消しました。

心の持ちよつで変わるんですね。自分もこんな歌を詠みたかったが出来ませんでした。ああ「が効いていて心臓を掴むよつていなあ」。素晴らしい。

いろいろ作ったが、やっと今回の「芽」で、五行歌らしい歌になりました。

一行目の切り口が素晴らしい。テーマがきれいにひとしにまとまっていますね。お子さんのことは書いてないけど、感じは伝わっています。

盆栽だけではなく、子どものごとも含めて詠みました。五行目、伸びてとも考えましたが、反省の意味もあるので、成長にしました。

気温が
どうあれ
芽吹いてる
ひそめた力は
どこにある

福原 祥子

黒い土を
破って
芽吹いた
ひまわり
太陽に恋してる

倉本美穂子

砂浜に
折りたたまれた
クローバーの芽がいつぱい
未来があるのね
あなたには

ともこ

芽吹きから待った
我が家の山桜が
今満開です
見てくれと
言わんばかりに

荒田 豊

ひらひらひらひら
風もないのに
くすのきの葉が舞う
枝先の新芽に
エールを送る

山根 房子

琴線を
揺さぶり起こして
芽生える
すべての
生命

かやみちこ
(三席)

どんな仕打ちにも
芽を吹く雑草は
誰かに似ている
厚かましくも
たくましく

藤本フミエ
(一席)

春爛漫よりも、冬の間の浅い春を感じるのがとても好き。生命力の強さがとても出ていますね。自然の営みを、素直に詠まれていてきれいな歌です。
春になると、こころにもあそびにも、自然のサイクルにあわせてきちんと芽吹く姿を詠みました。

四行目に「はが、いるのでは？」ひまわりは落ちた種から芽が出て、どんどん大きくなる強い花ですね。結婚前に何かあった人の歌かな？
芽、が、とても難しかったです。季節はずれの歌になっしまいました。……結婚前は、何にもないです。

解釈が難しかったが、なにかしら惹かれるものがあって採りました。四、五行の語りかけているような感じが好きでした。若い人に向けて言っているのかな？
辛い時期、海に行った。砂浜に葉が折りたたまれたままのクローバーがいつぱいで、自分も立ち上がりたいと思った。鳥の方たちともいい出会いがあったよかったです。

「自宅に桜があるっていいなあ」。春を迎える感じがよく出ているし、四行がとても好きです。自分の家の侘助もこんな感じだったので共感の歌です。
いつも早く歌を出しますが、今回は、桜の満開を待つ、そのままの気持ちを詠みました。

同じ芽でも、常緑樹は新旧交代で、そのことをよく観察されていて感心しました。新芽より落ちていく芽に「ありがと」とエールを送りたいですね。
新幹線の裏に楠木がたくさんあって、新芽に対して落ちていく葉がエールを送っているような様子を詠みました。

簡潔な五行の一字一句に力強さや喜びを感じた。生命の芽生えを心から喜ぶ感じを上手く表現されていて感心。頑張った故人への思いが重かった。
生命が芽生える時はどんな場合でも感動しますよね。

誰のことでしょう？新芽は中年の女性のようですね。雑草の強さを上手く表現され、クローバーもあって共感の歌です。会社で出世する人はこんなタイプです(笑)
田んぼを借りていろいろなものを植えているが、草は抜いても抜いても雨が降ると、すぐ芽が出てしまう。本当に強いですね。

そつと
触れた
手と手
恋が芽生えた
瞬間かも

紫陽花
(同五席)

爽やかで可愛らしくて青春の頃を思い出しました。その先を想像させるような、人を楽しませてくれる歌ですね。こんな恋はないがフォーケダンスを思い出したなあ。

ホンワリ
やさしい風にのり
桜が芽吹くように
枯れた心も
蘇よみがえればいいね

野 菊
(同五席)

癒されるい歌だなあ。このままでのとても優しい気持ちになりました。桜は曇りの日の方がピンクできれいです。ホンワリは、ひらがなの方がいいのでは。癒し系と言われて蘇よみがえりました。ホンワリは私の方言です。片仮名が使いたかったです。

伸びる芽を
摘んでしまった母である
脇芽の強みでぐんぐんと
勝手に伸びる
子らである

鈴野 鳴道
(四席)

子どもが中高生の頃、こんな思いをしたので共感しました。一押しの歌。伸び伸びと力強く好きです。母と子の対比、開き直りがおもしろいね。見極める力がなく、成功か失敗か分からないが、子は生きる力だけは持つてくれているようです。

踏み固めた
土を押し上げて
顔を出す
やわらかい芽の
パワーに脱帽

住吉 邦子

春の到来を心地よく迎える歌ね。一、二行の強いイメージと四行の柔らかなさの対比がいい。どんな大木でも芽は本心に柔らかなんですよねえ。固い土から、やわらかな芽が出る。すこいなあ、と毎年、球根が芽を出す頃に思うことを、詠みました。

土がわるいと
芽も出ない
けど
あんたはいいねえ
ニキビも出てる

いくたあつむ
(同五席)

四、五行が好きです。暗い感じから、子モアーで締めていなあ。母から、あんたはいいねえ、若いけえ。歳を取ると出るもんも出んよと言われた笑。皆さんと違う、芽を考えた。バスの中で、ニキビの子を見かけ、今時、珍しいなあ、と思って歌に。人生の芽として、ニキビを取り上げました。

嫁いで四十年
がむしゃらに耕し
種をまいた
だが、芽をきらられ
三界に家なし

こころ

その家のために身を粉にして働かれた、きれいことではない、寂しさ、切なさ、辛さに惹かれました。私も同じような状態。頑張らなくてはと思った。人生の芽です。田舎に住んでいたら、いろんなことがあり、今の宙に浮いた状態を、五行目にまとめました。

21
豪雪にたえ
春を待つ
ミニリンゴの木
やっつと
芽を吹く

原 ヤス子

実家にもミニリンゴがあり、春がきた目印で子どもを思いついた。どんなことがあっても芽吹いて人生に重ねて素晴らしいなあと思います。盆栽のミニリンゴ、すこい雪で心配しましたが、少しづつ芽が出てきたので、歌に詠みました。

歌のみ・題詠 芽

人目につかぬ
土手の片隅で
ひっそり芽ぶき
強く生きる雑草
人生 それもいい

道原紀代子
（一席）

人生は雑草のごとし。自分のことかと！ 出世するばかりがいいのではない、雑草のように下積みで強く生きてこそ価値がありますよね。演歌ですねえ。八代亜紀に歌わせたい。

すずやかに
みつめてくださる
仏さま
元気の芽
いただく思い

さくら
（五席）

清らかで心が洗われるような歌。仏さまに寄り添い生きる力をもらっていらっしやるのかな？ 仏さまは和笑で答えてくれますね。気持ちやすくと楽になりますよね。

見上げれば
木々に
新緑が芽吹き
雑草の
小さな花もいとおいしい

藤本 春雄

強く生きる雑草に共感します。たくましさを分けてもらいたい。春の息吹、情景を上手くとらえてありますね。自然の恵みに愛を感じておられる作者に優しさもらいました。

桜の花に見送られ
逝った妹
今年も大好きだった
花々が芽吹く
「忘れないよ」と・・・

まゆ

涙が出そうです・・・ 想い出は花鳥風月にこそ現れるもの。妹さんに重なる春は作者にとつて忘れられない季節になりましたね。しっかりと思い出してあげてくださいね。

芽吹いた
恋の
ゆくへは
どこなのか
空を見上げる

小原さなえ

嬉しい時、寂しい時、人は空に思いをはせます。共感です。片思い？ 涙がこぼれないように、人に悟られないように、人類は片思いの連続！！ 風船のように飛んでいったのかな、メルヘンチック。

枯葉の花壇
一雨ごとに
色を染める
土の下では
出番を待っている

柴 まさこ

枯葉は土色に染まり、やがて土に戻る。地下で次代の新芽とバトンタッチ。選手交代のドラマですね。芽が出ないと心配で、土の中を掘ってみたりしたのを思い出します。

痩せた土に
芽が出ない僕
凜として
木枯らしに立つ
お前

江中 共治

男性的な力強さを。落ち込んでいる作者と木枯らしにたつ妻との対比がグッとくる。頑張って！ 人生の無常を受け入れ、凜として支える・・・ 人生応援歌ですね。

うす衣着て^{うすえ}

黄金の油で^{こがね}

ひと泳ぎ^{ひとゆぎ}

早春のたらの芽^{そうしゅん}

天紙の上に舞い下りる^{てんし}

杏の花見

(同三席)

ユーモアのセンスに脱帽！ オチも「天紙」で決まっていますね。てんぷらを揚げるのにもこんなドラマが(笑)待ちわびた春野菜、喜びと幸せそうな顔がみえます。「たら」がPCで出なかつたのでこんな風に見ました(かや)

芽吹き of 風に

背を押され

もしやの心で

一步

踏み出す

ゆうゆう

(同三席)

「芽吹き of 風」がとても好き。一步踏み出す力を与えて預ける思い。私のひと言で踏み切った友人がいる、みんなきつかけ待っているのかなあ。若人が不安な心で次のステップを踏もうとしている姿? のびやかに静かに前進する様子。

だまってだまって

ふくらんでいた

椿の花芽

忍耐を

ブレゼント

若井もとむ

寒さの中でじつと我慢して出番を待っているこの忍耐力、見習いたいね。元気をもらえるようでいい。「ブレゼント」の表現が好き。作者の優しい目線が嬉しいです。

いい事など

起こるはずなのに

幸せに包まれそうな

木々の芽吹きと春の陽

何かしら浮き立つ

ゆい 雅子

「何かしら浮き立つ」春、独特の感覚を上手く捉えられているなあ。自らの心を奮い立たせているようにも思えます。何かしら幸せになりそうな歌。ちょっと字数が多いのでは・・・?

子育てと

ガーデニングと

共に 相似かよっている

良い芽はしっかりと伸ばし

悪い芽は早めに摘みとる

懸川千恵子

たえず目をかけておかなくてはいけない子育てと花育て、同感ですね。字数多い? テニヲ八を上手く使って歌らしい言葉に整理されたらどうかな。数回音読して感じを確かめられたらいいですよ。

おさな子

小さいグーの手

この子の芽

守ろう

母の愛

田中カズエ

(二席)

短い言葉で母の気持ちを表現、最後の締めにも感心です。母に感謝、感謝。ただ名詞止が多いのでは? 音読を繰り返せば不自然さがわかります。四行目はもっと強い意思表示を。視点はいいので推敲すれば秀歌になりますよ。

落葉布団に

雪布団

エネルギーもらって

芽出しの準備

じつと春待つ土の中

横田 純枝

優しい言葉で発芽の時を表現されていて素敵な歌。落葉や雪が布団になるなんて、いいですね。歌の流れを優しくするために「テニヲ八」を使ったらいいです。「エネルギーを」「春を」のように。リズム感がよくなりますよ。

山本 和恵

亡き夫が
こよなく愛した
鉢ほけの木瓜
新芽スクスク
春を忘れず

亡き人の思い出が毎年新たになり、「春を忘れず」に凝縮されていて素敵です。可愛い花なのにボケとは不憫でいじらしい。偲ぶ思いは切ないですね。

空田 和子

寒風に負けずに
アシは
芽め生えてる
私も元気に
パワーを出そう

葦の芽生えを見たことはないのですが、自然のエネルギーをもらって元気を出そうとする作者の前向きな思いが伝わります。「寒風にも」「芽生えている」とするなど、あなたが普通に話す言葉にすれば五行歌らしくなりますよ。テニヲハを上手く使ってみてくださいね。

池田 義子

妹 形見のアマリリス
今年も芽吹き
すつくと伸びて
ほほえみかける!!
ありがとうございます

形見は妹さんそのものとして可愛がっておられる、優しいですね。すつくと咲いているアマリリスはたくましいなあといつも思います。「妹の形見の」とするのが自然かな? この場合「」が二つ続いても違和感はありません。音読してみたらよくわかりますよ。

山田 正巳
(次点)

五行歌の
題詠は 芽
枯死寸前の脳に
新芽の萌える
気配なし

まつ、私のことだわ!! 一見、とてもダークな感じですが、ブラックユーモアが素敵です。この頃 頓に枯れてきているような気がしています。

野田 真弓

万年青を描く
手描友禅の
カレンダー
一年中
ハッピーでいたい

万年青はめでたい花、美しい絵が見えるよう。万年青の生育に自分の一年を重ねておられるのかなあ〜と。あの万年青のようにいつも元気で幸せな緑をふりまいてほしいねえ。

小泉 秀子
(四席)

芽吹いた
ウズウズが騒ぎ始めた
会いたい
話したい
笑いたい

やっと来た春にワクワクしている作者、気持ちの高ぶりはおさえられませんがね。私も笑って笑って笑い明かしたいです。旅行の虫や楽しかった思いがムズムズ・・・よくわかります。

森 鈴

2
1
毎日のぞきこむから
チューリップ
恥ずかしがって
芽を
出せずにいる

「見つめちゃいやよ」ってチューリップを人間のように見立てていて、楽しい歌。チューリップの愛らしい雰囲気はびつたりりの歌で大好き!“チューリップ”を二行目にもってきても、テンポがよくて好きです。